

篠山市営福住本陣団地

【応募者】 氏名：才本謙二 / 勤務先名：有限会社 才本建築事務所 / 勤務先住所：兵庫県篠山市池上 358-2 / 連絡先（勤務先）：TEL(079)554-3781 FAX(079)554-3780 Email: saimoto.arc@dream.com

【応募理由】

3年後に伝統的建造物群保存地区の選定を目指す地域の中心、本陣跡地での計画は、単なる景観配慮の域を超えた提案が必要であった。また、移り住む多数の新住民と迎える地元のコミュニケーションを築く装置としての役目は、今後形は違えども、どの地域でも起こり得る問題の解決手法として、果たしたと思う。

【作品または活動の概要】

①事業主体 兵庫県篠山市

設計者：有限会社 才本建築事務所

施工者：東洋建設株式会社・中兵庫建設株式会社 JV

事業制度：まちづくり交付金事業

②計画概要

敷地面積：4602.08㎡ / 建築面積：1159.00㎡

延床面積：1372.25㎡ / 構造：木造

型式：四戸一 5棟

タイプ別住戸面積 1LDK (5戸) 48.8 ㎡

2LDK (10戸) 64.9 ㎡

3LDK (5戸) 77.9 ㎡

住戸数 20戸

階数 2階

【作品または活動の特色】

宿場町の面影が色濃く残り、良好なコミュニティが形成されている土地での公営住宅の計画は、周辺住民と新住民の軋轢をどう回避するかが、ポイントとなる。周辺住民には、建物が地域に溶け込み好意が持てるように、また新住民には、自分の住まいに誇りを持ち、第二の故郷となるように計画した。

設計上の特徴として、応募理由に記した通り歴史的、景観的に重要な地域であるため、連たんする町屋の軒の高さや出幅、建物の壁面ラインや腰板の高さを測定、母屋と蔵の位置関係や棟の方向、面格子や虫籠窓に至まで様々な部位を調査しデザイン言語として採用した。また、羅列を避け一棟一棟全て違ったファサードを持ち、それぞれの棟の重なりやスカイラインを意識しつつ周囲の町並みとも馴染む様にデザインした。住まいは、地元の材料で造るのが基本だと考え、地域材を使用することが上記コンセプトの補完となった。構造材に造作材は、全て篠山の杉、桧を使った。また、土壁も地元の土を使用し、本来日本家屋のあるべき姿であ

る地産地消、循環型社会の理念に沿ったものとなっている。さらに、施工も地元の建設会社を中心としたJVで、地元を熟知した職人の技によって完成した団地は、この地に違和感なく溶け込んでいる。



▲住戸入り口。篠山の土の門柱。白壁と▲主屋と蔵からなる福住宿場町。蔵のフォルムを持つ住戸が、街並みにリズムを与える。



▲北側から全体を見る。手前東屋は、篠山の土を使った中塗仕上。



▲南側京街道に面した団地入り口。右に見えるのは、江戸期の商家。軒の高さを揃えている。



▲雪景色。二階むしこ窓と1階細格子から漏れる明かりは、往時のミセを表現した。



▲周辺の景観との調和。

